

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立深谷高等学校 事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 埼玉県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	対象生徒 : 全校生徒
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (オリンピアンによる講演会)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピックを控え、オリンピックやワールドカップに参加した選手・コーチを招聘し、スポーツ価値や効果の再認識、チャレンジや努力を尊ぶ態度、ルールの尊重やフェアプレーの精神等を通じ、国際的な視野を持って世界の平和に向けて貢献できる人材を育成する。
5 取組内容	<p>(1)実施日 平成30年12月14日(金)</p> <p>(2)講師 リオデジャネイロオリンピック 女子セブンス 日本代表S&Cコーチ 宮崎 善幸 氏 日本代表選手 中嶋 亜弥 氏</p> <p>(3)演 題 「女子ラグビー世界ーを目指すことで見えた景色」</p> <p>(4)内 容</p> <p>①宮崎氏からは、「コーチとして五輪に出場したい」という夢を持ち、チームとして何が必要かを分析し、様々なトレーニングなどで選手を鍛え上げてきたことを動画で紹介するなどした。2010年アジアで5位だった日本女子の実力を2013年には1位にし、次の目標は「金メダルの獲得」で、「あきらめずに信じ続ければ夢に近づくことができる」との話があった。</p> <p>②中嶋選手からは、22歳で社会人になってからラグビーを始め、25歳で7人制ラグビーの日本代表候補となり、リオ五輪では、当初は補欠選手であったが、負傷選手が出たため、途中から五輪選手となったことや、「挫折や悔しい思いをしても、目の前の夢に向かって本気で取り組めば、次の大きな夢へつながる」との話があった。</p>

	
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国際舞台で活躍した指導者としての経験を詳しく聞くことができ、選手から指導者となることを目指した際の転機の話など、スポーツを続けていきたい生徒にとって、生徒が将来を考える良い機会になった。 スポーツの選手としてより高い目標を目指すにあたり、挫折や悔しい思いをしても、目の前の夢に向かって本気で取り組めば、次の大きな夢へつながることを伝えられ、運動部の生徒のモチベーションも高まった。運動部以外の生徒にとっても、努力をすることの大切さが伝わった。 スポーツのもつ価値や素晴らしさを認識することができ、今後のスポーツへのかかわり方を生徒一人一人が考えるきっかけとなった。 講演会実施のお知らせを全校生徒に配布したことで、各家庭でオリンピックなどの話題として取り扱うきっかけとなった。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>本校は、男子バレーボール部が、全国高等学校バレーボール選抜優勝大会(春高バレー)において4回の全国制覇、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)においても4回の全国制覇を成し遂げ、バレーボール全日本の代表選手も数多く輩出している。また、ラグビー部が過去14年間で10回全国高等学校ラグビーフットボール大会(花園)へ出場し、多くの代表選手を輩出している。また、ラグビー部3年生の女子部員で、女子ラグビージュニアオリンピックアジア大会日本代表等に選ばれた選手がいることもあり、オリンピックを招へいすることになった。</p>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 講演時間が限定されるため、十分な質疑応答の時間をとることができなかった。 各取組を統括する分掌や委員会がないため、連絡窓口等が全て教頭に集中する。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピックやパラリンピアンからの講演を通して、オリンピックやパラリンピックへの理解を一層深めていきたい。</p>